九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[0020]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2005年

https://doi.org/10.15017/6244

出版情報：九州大学生体防御医学研究所年報. 20, 2006-07. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン：
権利関係：

診療放射線室

Radiology

医師 2 名、放射線技師 3 名で、画像診断全般、IVR、放射線治療を担当している。
研究では、胃癌に対する新しい画像診断法に関する研究および放射線防護剤の新たな投与法の開発に関する研究を行っている。
人事異動については以下の通りである。
2005 年 4 月に肥塚康道が技官として着任した。
2006 年 3 月に肥塚康道が正和中央病院に転出した。

A.　胃癌に対する新しい画像診断法に関する研究

胃癌に対する画像診断方法としては従来より、内視鏡検査および造影X線検査がある。近年CT装置の進歩に伴い、転移の検索のみならず、原発巣の検出･深達度診断に対しても用いられるようになりつつあるが、依然、問題点も多い。この問題点を明らかにし、改善を図るための研究を行っている。

B.　放射線防護剤の新たな投与法の開発

放射線防護剤に関する研究は現在まで多数行われてきたが、従来の全身投与法では安全域が狭く臨床応用は困難であった。我々は実験動物を用いて、IVR 手技を応用したより安全な局所投与法の開発を行っている。

業績目録

原著論文

1. Inoue T, Kato H, Yoshikawa K, Adachi T, Etoh K, Wake N. 2004.
   Retroperitoneal schwannoma bearing at the right vaginal wall.
   J Obstet Gynaecol Res. 30:454-457.

2. Hatakenaka M, Yoshimitsu K, Adachi T, Matsuda T, Wake N, Honda H. 2004.
   Transient uterine myometrial contraction associated with moles.
   J Magn Reson Imaging. 19:182-187.

3. 上田真信、宇都宮尚、増成暁、入江裕之、本田浩．2004 年
   3D-CTを用いた正常胃幽門前庭部における壁の厚さの解析
   日本消化器内視鏡学会雑誌　46巻　698項

学会発表

1.Ueda M, Utsunomiya T, Irie H, Masunari S, Honda H. (2004, 11/28－12/3)

3D-CT imaging of gastric cancer
The 90th Radiological Society of North America, Chicago

2.上田 真信 (2005, 5/26－5/28)
0-Ⅱc型早期胃癌の3D-CT所見の検討
第69回 日本消化器内視鏡学会総会 東京都

3.上田 真信 (2005, 11/22)
胃癌の3D-CT
GIカンファレンス記念講演会 北九州市

4.上田 真信 (2005, 2/21)
胃の粘液癌
大分胃腸会 大分市

検査室

Diagnostic Laboratory

人事に変更はない。
当検査室は，病院の効率的経営に寄与するとともに，先進的検査法を開発できるような組織に変貌することが求められている．経営効率の観点からは，非効率的検査項目の外部委託への移行や試薬等の適正納入による経費節減に努めている。また，検査医学の専門職として Nutritional support team や Infection control team の一員としての活動も今後さらに発展させたい。

業績目録

原著論文

1. Youko Suehiro, Koichiro Muta, Manabu Nakashima, Yasunobu Abe, Motoaki Shiratsuchi, Satoshi Shiokawa, Shoichiro Ikuyama, Yauji Yoshikawa, Takeshi Watanabe, Junji Nishimura
A novel mechanism in suppression of erhthropoiesis during inflammation: a crucial role of RCAS1.
Eur J Hematol 2005: 74: 365-373

2. Tohru Utsunomiya, Kzzuhiko Ogawa, Keiji Yoshinaga, Mitsuhiko Ohta, Keishi Ymashita, Koshi Mimori, Hiroshi Inoue, Takahiro Ezaki, Yasuji Yoshikawa, Masaki Mori
Clinicopathologic and prognositic values of Apolipoprotein D alterations in hepatocellular carcinoma
Int J Cancer 116, 105-109, 2005

3. Koshi Mimori, Akemi Kataoke, Keiji Yoshinaga, Mitsuhiko Ohta, Yasuaki Sagara, Yasuji Yoshikawa, Shinji Ohno, Graham F Barnard, Masaki Mori
Identification of molecular amrkders for metastasis-related genes in primary breast cancer cells.
Clinical and Experimental Metastasis 22: 59-67, 2005

4. Hidenori Kato, Takefumi Inoue, Kazuo Asonoma, Takao Matsuda, Yasuji Yoshikawa, Norio Wake
Activation of STAT3/5 Signal Pathways in Complete Mole and Repression in choriocarcinoma cell lines
The Journal of　Reproductive Medicine 51(1); 41-48, 2006 Jan

5．吉河康二
病理検査士制度をめぐる話題
Medical Academy News 955: 10-12, 2005

著書

1. 吉河康二, 2006.
腎･尿路.
カラーで学べる病理学（渡辺照男編）, pp. 225-238
ヌーヴェルヒロカワ, 東京

2. 吉河康二, 2006.
腎･尿路.
カラーで学べる病理学整理ノート：ポイントと確認問題（渡辺照男編）, pp. 56-58
ヌーヴェルヒロカワ, 東京

学会発表

1．吉河康二
卵巣腫瘍
第 285 回九州スライドコンファレンス
平成 17 年 5 月 15 日（福岡市）

2．本村誠一、大野博文、吉河康二、西村純二
非血縁同種骨髄移植後 3 年の経過を経て単純ヘルペス肝炎を合併した
慢性骨髄性白血病の一例
第 77 回大分臨床血液懇話会
平成 17 年 7 月 21 日

3．吉河康二
病理検査士制度をめぐる話題
第 52 回日本臨床検査医学会総会　病理・臨床細胞学専門部会講演会
平成 17 年 11 月 18 日

4．宇藤満昭、吉河康二，田中文明，三森功士，森正樹
乳腺紡錘細胞癌の 1 例
第 21 回臨床細胞学会大分県支部学術集会
平成 18 年 2 月 19 日（大分市）

5．宇藤満昭、吉河康二，田中文明，三森功士，森正樹
乳腺紡錘細胞癌の 1 例
第 21 回大分乳癌のつどい
平成 18 年 3 月 4 日（大分市）

手術部

Department of operation

九州大学病院別府先進医療センターの手術室管理、年間200程の外科手術症例に対して、安全で低侵襲の麻酔管理を目標に周術期管理に取り組んでいる。加えて、侵襲度解析の方法として 周術期患者に対する酸化的ストレス特に、活性酸素とフリーチオール基の抗酸化作用をチオール基還元酵素の視点で解析している。

慢性疾患診療部（リハビリテーション）

Rehabilitation of Chronic Diseases

人事については、主任の西山保弘が平成 18 年９月１日付で副技師長に昇格した。理学療法士矢守とも子が、平成 18 年１月７日～平成 19 年１月６日の期間において育児休暇を取得する。
職員構成は、西村純二部長、尾山純一助手，西山保弘副技師長、理学療法士工藤義弘、理学療法士矢守とも子、マッサージ師岡田玉樹である。派遣職員１名が温泉水治療法担当として配属されている。
診療実績については、平成 16 年度は理学療法が 10001 件（人)、作業療法が 2993 件（人)、合計 12994 件(人)の算定があった。平成 17 年度は理学療法が 10246 件(人)、作業療法が 2701 件（人)、合計 12947 件（人）の算定があった。
臨床研究については、西山保弘が３軸加速度計を用いて虚弱高齢者の身体活動量と身体機能の関係を研究している。また、尾山純一助手、工藤義弘が心疾患の温泉温熱刺激が末梢血管抵抗に与える影響、サイトカインへの影響について研究を行った。

業績目録

総説

1．工藤義弘
関節リウマチに対する早期からの運動療法
理療 35 巻 3 号 Page28-37(2005.11)

学会発表

1．西山保弘，佐藤義則，塩川左斗志，山元裕子，工藤義弘，矢守とも子，尾山純一
関節リウマチの身体活動量と炎症マーカー　理学療法評価としての ADL・歩行時間の関連性,第 40 回日本理学療法学術大会,大阪(5/25-26)

2．武田知樹,平松義博,舛友一洋,竹村仁,工藤義弘,波多野義郎
在宅生活をおくる虚血性心疾患患者の生活習慣，第 40 回日本理学療法学術大会，大阪(5/25-26)

3．畑洋一，畑知二，中尾宏，畑一郎，矢永尚士，西山保弘，牧野直樹
高齢者を対象とした「湯けむり健康教室」での運動効果,第 70 回日本温泉気候物理医学会,富山(5/25-26)

4．西山保弘，佐藤義則，大畠照雄，上牟田浩典，林篤史，工藤義弘，矢守とも子，中園貴志，岡田玉樹，西村純二
微弱無線タグシステム（Tagstation）を利用した医療安全サービス向上を図る患者動態システムの開発
第 27 回国立大学法人リハビリテーションコ・メディカル学術大会,名古屋（9/2）

シンポジウム

1． 西山保弘,林正春.（2005　4/20）
コメディカル合同シンポジウム： RA のリハビリテーション
第 49 回（中）日本リウマチ学会学術集会（横浜）